



# 若竹だより

292



運営基本理念

報四恩

父母の恩・社会の恩

郷土の恩・大自然の恩

父母の恩・社会の恩

- 【私たちの願い】 ①よろこんで与える人間となろう ②いのちを大切に作る人間となろう  
③こころ静かに考える人間となろう ④使命に生きる人間となろう ⑤規律ある幸せ喜ぶ人間となろう

法人の社会貢献事業 ①四国八十八ヵ所巡礼者無料宿泊&お接待 ②講演会・シンポジウム等

## 【巻頭言】

### 「当たり前のこと」

園長 宮竹 恒

新緑を迎え、木々や草花が美しい季節、子ども達が自然の中で元気に遊んでいる姿を見ると、増改築を終え、園庭が自由に使える有難さを改めて感じています。

普段、生活していると何気ない事、当たり前のように過ごしていることが、実は大切であることを考えさせられます。

先日、青峰学級・若竹学級で高齢者疑似体験を子ども達が行いました。これは、子ども達が日頃取り組んでいる、若竹太鼓の演奏を高齢者の方々の施設で披露したいと考え、事前に行った取り組みです。

子ども達は、先生方、学園職員と一緒に真剣に取り組んでおり、高齢者の方々の感覚や気持ちを感じる機会となりました。

子ども達は、見え方や聞こえ方、動作の仕方など、普段とは違う感じ方を体験した様子でした。子ども達の姿を見て、後に考えさせられることがありました。子ども達は、高齢者の方々の感じ方や気持ちを体験しているが、大人はどこまで子ども達の感じ方を理解出来ているのかということです。

人には、五感があり、視覚、聴覚、触覚、味覚、臭覚は、人によって全く同じものではないことは知っているつもりですが、普段は、考えずに生活しています。また、バランス感覚の違い等は特に見過ごされているように思います。

学園で生活する子ども達は、様々な感覚が敏感であること、あるいは鈍いことが多いように感じます。自分の感覚が相手になかなか理解して貰えず、人間関係で上手くいかないこともあると思います。

口にして説明することが難しいこともあり、「分かって貰えない」と思うことも多いので

はないかと思います。また、ある子どもにとっては当たり前のことが感覚の違いから、大きな不安や挑戦になることもあります。

例えば、太鼓の演奏がとても楽しみで、自分が叩く事で、嬉しい気持ちになる子どもがいます。反面、聴覚が敏感な子どもにとっては、その場に居ることを誉めて欲しい気持ちになるかもしれません。

また、味覚は、偏りがあるように思われ、単に好き嫌いとして判断されることもあると思います。

子ども達の声が生活の中で活かされる為には、子ども達の感覚をもう一度見直し、生活の中で小さな創意工夫が必要に思います。

最近、食事に関して小さな変化がありました。これまでマヨネーズであえられていたサラダがドレッシングを選んで食べることが出来るようになったのです。

家庭で考えれば、自分の好きな調味料を選んで食べることは当たり前のことですが、今まで見過ごされていた点でした。きっかけは、マヨネーズが苦手な子ども達が食事を楽しみに出来る為に何かできないかということでした。

集団生活の中で協調する必要はもちろんありますが、個々の感覚の違いも大切にしたいと考えています。

また、子ども達には自分と感覚が違う仲間が居ることを知り、互いに認め合って生活出来るようになって欲しいという願いを持っています。

当たり前に思うことを見過ごさず、子ども達が、感じ方が違う人を受け容れられる大人に成長出来るよう、生活を共にしていきたいと思っています。

## 青峰・若竹学級だよ

### 毎朝の集会

毎日授業の始まる前に園庭で体操をした後、先生の話聞いています。

どの子どももきちんとした姿勢で、先生の目を見ながら話を聞くことができます。



### 新体力テスト実施

香川県総合運動公園の多目的広場で50m走やソフトボール投げ・ハンドボール投げを、亀水運動公園の体育館でシャトルランや反復横跳びを、その他の種目は学園のホールで行いました。



どの子どもも昨年度の記録を超えようと全力で取り組んでいました。自分の記録を更新したときには満足そうな笑顔が見られました。

### 1学期中間テスト

5月15日（月）～16日（火）の2日間、中学生は5教科のテストを実施しました。わからない問題にも粘り強く最後まで集中して取り組み、日ごろの勉強の成果を発揮できました。



### 坐禅への取り組み

僧侶でもある理事長先生にお願いして、喝破道場の坐禅堂を借りて本格的な坐禅に取り組んでいます。

普段はなかなかじっとすることができない子どもも、この時は静かに座ることができています。



中には終わった後、「頭がすっきりした」と気持ちよさそうに言う子どももいます。

坐禅への取り組みを続けることによって、日常生活でも落ち着いて過ごせることが増えてきました。

### 高齢者疑似体験

総合的な学習の取り組みの一つとして、小中合同で高齢者の疑似体験を行いました。

はじめに、高齢者の特徴や、自分たちとの違いについて考えた後、「つくし君セット」を使って、見え方や聞こえ方、からだを動かす感覚などを体験しました。

体験した子どもからは、「相手の声が聞こえづらく、会話が大変だった」、「文字がはっきりと見えず、新聞を読むのが大変だった」、「思うように箸が使えず、



碁石をつまむのに苦労した」などという感想が聞かれました。

## 野外炊飯

5 月 5 日のこどもの日に、野外炊飯をしました。メニューは、炊き込みご飯、シチュー、ポテトサラダ、さんま厚揚げ煮でした。

今回、災害避難時にも使えるパックスッキングという調理方法も経験しました。ポリ袋を使用して、食材を煮て調理する方法です。

炊き込みご飯は飯ごうを使って炊きました。女子のみんなで野菜を切り、小学生はキッチンバサミで油揚げを切り、中学生男子は火おこしをしました。それぞれが役割を分担して、全てのメニューを完成させることができました。

最後に、盛り付けをしてみんなで食べました。自分たちで苦労して作ったご飯は、普段よりおいしく感じられました。何度もおかわりをする園生もいました。



## 太鼓演奏

5 月 12 日、毎月、子ども達に太鼓を教えに来て下さっている和太鼓集団鼓太郎（高松支部）「満天さん」が、和太鼓の生演奏を 5 曲も披露して下さいました。和太鼓を今まで練習してきた子ども、初めて和太鼓を聞く子ども、各々が目の前の迫力ある演奏を感じ、黙って聞き入るほどでした。音の大きさと振動に驚いている子も居ました。満天さんの力強くカッコいい打ち方や床に置いた太鼓を足で挟んで、お腹の力だけで体を浮かして叩く、いつもとは違った演奏に、子ども達

も改めて和太鼓と言う楽器の奥深さを知った様子でした。

演奏が終わった後は、子ども達が和太鼓を実際に体験する番です。いつも練習している子は、演奏中にしていた格好いい打ち方を自分から質問して練習していました。初めて体験する子は、バチの持ち方から打ち方まで優しく教えてもらっていました。太鼓を終えて、汗を流しながら笑顔で交流が出来ました。



## 買物学習

5 月 18 日、子ども達が毎月楽しみにしている買物学習がありました。

小遣いの中から自分たちの欲しい物を考えながら購入しました。

職員と一緒にお店を周り、マンガ本や文房具、おかしなど 2 時間程度の短い時間で思い思いの欲しい物を購入して嬉しそうな表情をしていました。

お店での買物を通して、お金の大切さや使い方等を学び、社会に出る為の経験を積んでいる様子を見て、毎回、子ども達の成長を実感しています。

### 「園生の感想」

（中学 1 年生）

・買物学習で買い物の仕方や計算を覚えたりして学んでいます。

また、来月の買物学習が楽しみです。

（中学 3 年生）

・買った本が気になるな。次の買物学習で何を買おうかな。



